

令和4年度 第5回狛江市基本計画推進委員会会議録

- 1 日 時 令和4年8月16日(火) 午後7時～午後8時54分
- 2 場 所 狛江市防災センター3階 302・303会議室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司
委 員 猪熊 茂男 委 員 落合 香代子
委 員 小尾 将彦 委 員 牧瀬 稔
委 員 高橋 良典
事務局 富田政策室長 中村企画調整担当主査
大久保企画調整担当主事 猪野企画調整担当主事
- 4 欠席者 委 員 尾花 尚弥 委 員 牧瀬 稔
委 員 八峠 恵子 委 員 マクリーン 由美

5 議 事

1. 評価対象施策D「地域で支え合う仕組みづくり」の評価について
—事務局から説明—

【委員】

コミュニティソーシャルワーカーの役割は担当窓口へつなげるものか、ソーシャルワーカー自体が相談者となって色々なアドバイスするのか。

【事務局】

適切な機関があった場合はつなげるが、コミュニティソーシャルワーカー自身が相談者の元に通い相談を受けることが主な仕事である。

【委員】

コミュニティソーシャルワーカーはアドバイスも行うのか。

【事務局】

相談内容により、アドバイスを行っている。

【委員】

特別な資格はあるか。市の職員なのか。

【事務局】

社会福祉協議会の職員のため、おそらく社会福祉士等の資格を持っていると思うが、具体的な資格までは把握していない。市が、社会福祉協議会に業務を委託しており、社会福祉協議会の有資格職員を市内3地域に分けた地域に1名ずつ配置されている。

【委員長】

医療費の総額は減少していて、1人当たりの医療費が増加しているというのは重症化しているということか。

【事務局】

詳細の数値や新しいデータも含めて確認するが、全体として国民健康保険加入者が減ってきており、平成27年度20,114人、平成28年度19,103人、平成29年度18,172人と減ってきているため、総額は減少する。1人当たりの医療費単価は増加しているため、加入者が減少していることに比較すると、総額としては減少していないという見方になる。資料のデータは狛江市の国民健康保険となり、74歳までである。団塊の世代の方が後期高齢者に移行し、国民健康保険から抜ける方が多くなる実情がある。

【委員】

国民健康保険と後期高齢者を合わせて見る必要があるのではないかと。

【事務局】

後期高齢者は広域連合化されて東京都として事業を行っているため、年間通した狛江市における医療費は把握しているが個別データは持っていない。

【委員】

支援を必要とする人からの声を拾い上げる体制というのは十分だろうかという疑問がある。また、セーフティーネットから漏れていくことが多く、漏れないようにという視点で考えても難しいので最低ラインを明確化して、狛江市としてしっかりやられているかどうかという基準を考えた方が子どもや高齢者双方にとって良いと感じた。

【委員長】

引きこもりを発見するのは、ケアマネージャーが活動中に偶然見つけるのか。

【事務局】

多いケースはケアマネージャーが介護保険の相談等の訪問先で、当該家庭内や知人で引きこもり状態の方がいるという話を聞き、ケアマネージャーがソーシャルワーカーに連絡するケースである。引きこもりの本人から相談に行くケースもあった。

【委員】

ケアマネージャーは必ずソーシャルワーカーへ連絡する仕組みになっているのか。

【事務局】

連携について、システム化まではしていないと思われる。市内3つの包括エリアでコミュニティーソーシャルワーカーを分けている。おそらくケアマネージャーにつながるなければいけないルールではないが、認識されて密に連携が取れているため、相談があった際にはソーシャルワーカーへつながるケースが多いと思う。

市では色々なセーフティーネット相談窓口があるが、市だけでなく東京都や国の窓口がある。セーフティーネットで拾えない方、自分で相談できる方はよいが、相談されない方もいる。たまたまケアマネージャーが行く家庭であるため引きこもりを把握できるが、8050問題のように、介護サービス受けていない元気な高齢者の世帯で、40、50代の息子さんが引きこもりだった場合には、ケアマネージャーのサービスは受けていないため、引きこもりについては自分で相談したり、親がセーフティーネットに相談する必要がある。通常の支援では見えない点を行政として拾いあげて適切な支援につなげていくためのアプローチの一つとして、コミュニティーソーシャルワーカーを数年前から配置しているが、全部を補えるわけではないのが、難しいところである。

【委員】

民生委員の活動で、最低でも75歳未満、年一回のポスティング活動を実施しているとあるが、自分の担当地域の人たちに年1回訪問してもらい直接顔を見ることは人数が多いためできないのか。民生委員ごとのやり方にばらつきがあるように感じる。民生委員はどこの所属なのか。

【事務局】

民生委員は都道府県の非常勤職員として民生委員をやっている。

【委員】

給料をもらっている市の職員なのか。

【事務局】

東京都の非常勤職員と任命され、無報酬である。担当者によると、民生委員の支援の方法についてはばらつきがあり、知り合いが多い方や顔馴染みのある人は積極的に声を掛ける民生委員もいるが、逆に声をかけてほしくない住民の方もいるため、自分から働きかけるというよりは、相談があったときに対応すると聞いている。委員の更新はあるが、全ての地域に配置できておらず一部空白地域もある。

【委員長】

ポスティングするだけでは、その人がどういう状況か把握できないため、自分で声を上げられない方に対するフォロー体制が必要である。

【委員】

敬老金を配るときに、直接確認するという意味があるのでは。

【事務局】

敬老金は民生委員が直接対象者の自宅に配るが、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間実施していない。敬老金を配るのは77歳、88、99歳なので、通常であればそのタイミングで確認を行っている。

【委員】

75歳以上の市民、民生委員は何人いるのか。

【事務局】

75歳以上が後期高齢者で、65歳以上が高齢者を指す。住民基本台帳によると8月1日時点で市民全体が82,947人、そのうち65歳以上20,097人、75歳以上だと11,472人住民登録されている。民生委員は54地区で11,000人を46人で担当している。

【委員長】

市の制度ではないため、市から民生委員に対してはお願いという形しかできず、民生委員に必ずやってくれという指示は難しい。

【事務局】

ただでさえ空白地域もあり、民生委員は高齢者だけを見ているわけではないため、負担が増えることにより、更に委員の担い手がなくなる可能性もある。

【委員長】

現状では民生委員がやるのも難しいため、呼び掛けて反応がなかったときにフォローする仕組みが必要なのではないか。

【委員】

元気な人であっても、急に体調を崩す人もいるため、タイムリーに全てを救い上げるのは難しいように思う。

【委員】

現在の狛江市が抱えている課題について、既存の仕組みだけでは立ち行かない現状があると感じる。人口から考えても、75歳以上の方11,000人に対してコミュニティーソーシャルワーカー3人のみであり、対象は高齢者に限って考えると、今の政策だけでは十分でない可能性があるという問題意識から、新しい施策を柔軟に考えていく必要がある。前回会議の相談窓口の相談者の役割に通じるが、弾力的な様々な政策を検討する必要があると思う。

【委員長】

今の状況だと人的支援が足りないかもしれない。高齢者は増えていくので、仕組みを考えていく必要がある。

2. SDGs の評価について

—事務局から説明—

【委員長】

質問等あるか。

【委員】

自殺者数は人口割合で見たときに、26 市中何番目か。

【事務局】

少ない方であるが、具体的な順位は手元に資料がないため追って報告する。

【上田】

乳幼児の死因のうち、虐待等によるものがなかったということを指標とするのは難しいが、そのような事例が過去数年なかったことが非常に評価される事だと認識した。昨年の SDGs の提言の中で、市職員の理解を高めていこうというのがあったが、行政内部の認知度は変化があったり、研修を実施したのか。

【事務局】

令和3年度3月頃に管理職を対象とした SDGs に関するオンライン研修を実施し、管理職、部長、課長、及び希望する職員が数名オンラインで受講した。研修の成果については測れていないが、今年度も職員向けに SDGs 研修を実施する予定であるため、成果についてはそちらの研修と合わせて測っていければと思っている。

【委員長】

他に何かあるか。

【上田】

最初の委員会の中で他の委員も指摘していたが、前期基本計画の中で環境問題等に関して重点政策が挙げられていないため、SDGs17 のゴールだけでなく複数ゴールの共通テーマとして見る必要があると考えている。例えば気候変動の中で熱中症が増えているが、熱中症リスクが高い高齢者の方や障がいのある方について、環境問題も福祉の施策側から見ていければという議論がされている。提言書に書きづらいが、個別政策をみるというローカル指標に合わせることも大事だが、それとともに複合的な課題がないかという視点で施策をチェックするという視点も非常に重要であるため、そこを縦割りやらないという視点を持ち続けて議論されることを期待する。

【委員長】

施策ごとに横串を刺したような視点での見方も重要である。

【委員】

論点としては各自治体ごとのローカル SDGs の指標設定があり、狛江市は前期基本計画と SDGs 関連させているので、そこは他市町村と比較して一歩進んでいると思う。

3. 提言書（案）について

—評価対象Aについて事務局から説明—

【委員】

教育委員会作成の資料をみて、あらすじをみると市内の学校の生徒たちを中心にそれを作っているということだったが、市民が広く使うため、という観点がないのではと感じた。内容が立派であるため、教育委員会が学校教育中心の物だけに固まるだけではなく、広く市民に活用してもらい、街歩き等につながればよいと思う。

【事務局】

提言書案には観光資源や市の魅力創出の積極的情報発信をしていただきたいという記載があるが、修正が必要か。

【委員】

もう少し具体的に記載する必要がある。学校だけを中心に生徒に配っているため、もう少し委員会等に話しかけて広く周知を。

【事務局】

教育委員会としての取組のみではなく、庁内組織の横断的な情報発信にした方がよいということによいか。

【委員長】

今回の提言としては、社会教育課に向けてとなるか。

【委員】

教育委員会だけの問題ではなく、市全体の広報として考える必要があるのではないか。小学校から家庭を通じて、間接的に広がるのを待つというのは消極的であると思う。

【委員】

もともと評価対象施策Aというのはまちの姿を生涯を通じてまなびから始まって、歴史の理解と継承という言葉があるわけで古墳だけに限った話でないはずだが、提言書の内容について違和感を感じる。個人的には歴史的な意味合いが他の史跡に比べて低いため、魅力度が薄いように感じている。例えば豊臣秀吉がいた等であれば話は別だが、ただ昔の人が暮らしてたというだけでは凄みに欠け、アピール度が弱いと思う。これを単独で何かのモチベーションを高めるのは不可能ではないか。市内の古墳も2、3か所は綺麗に整備しているが、他はかなり放置されている状態であり、畑の真ん中であってたどりつけない場所もある。そういう意味では史跡としての対象があるにせよ、整備した状態を見せようとする姿勢は今の狛江市にはない。アピール度が高くなく、プライオリティを高めて実行するだけの価値があるのか。

【委員長】

市外でなく市民に対して魅力が伝わるように、ということか。

【委員】

全体的な観点から言って、観光的資源そのものに利用できるものではない。という切り捨てた意見である。ただ、歴史的なものであることに間違いがないため、放置するのではなく、プライオリティは低いけども最小限にきれいにしていくという程度。

【委員】

一つ言えることは全国レベルで見たとき、何世紀でこういうことがあります。その

時の狛江にあるものはこの時のものです、といった説明であり、見せ方を工夫せず、単に一つの場所だけを言っているだけである。そうでなく全体で見たときのどの時代のどういう位置づけのものかという俯瞰的な見地で古墳の在り様を見せないと、今のままでは魅力は伝わらない。もう少し違う観点で、古墳時代の中における、狛江にある古墳の情報を入れていくと関心が出るかもしれない。

【委員】

このような文化資源を紹介する団体はあるのか。他の地域では高齢者の団体があって、高齢者の生きがいであったり、文化を紹介することがその地域でのシビックプライドを高めることもあるので、そのような工夫が欲しい。市内の中で広まって、外から人が来てもらうことに少しはつながる可能性もあるので、老人クラブのようなところと連携しながら。

【委員】

古墳の時代背景を日本がその時どういう時代であったかということと関連付けた、身近に感じるような紹介の仕方も考えて、もう少し分かりやすいようにしていった方がよいと思う。

—評価対象Bについて事務局から説明—

【委員】

和泉多摩川駅にある就労支援について、今日実際に見たが、なかなか良い試みだと思った。リスクを負わずに1万円のみで出店できるので負担が少なく、1日最高4店舗出店でき、店内の客席は3～4席程度。

出店している方に聞いたところ、創業セミナー等も受講した方で、受講できたことにより大変ためになり、補助制度も受けられたと言っていた。実際起業しようとする人のために役に立つので良いと思う。セミナー等で税金のことに疎い方にも、事業をやる上で最低限のことを教えてもらえたら、吸収力はあるのではないかな。

【委員長】

創業セミナーが機能していることを評価するとしてうえて、市内市外に発信するという提言を入れるように。

【委員】

地元商工会やJCのような若手経営者の意見を聞くことが必要ではないか。そのような意見を聞くことのできる協議会がなければ協議会等を立ち上げ、市も一緒になって彼らの目線や意見を吸い上げた方が良いと思う。また、商業施設が駅一点集中型であり、コンパクトさが狛江の特徴ではあるが、商業においては回遊性が大事なのでいかに市内で長くとどまるかという視点も必要である。今後、駅前が再開発になるかはわからないが、狛江の裏側はまだ古い店が軒を並べており、もう少し魅力のある商業施設を作ろうとすると再開発も視野に入れられないといけないかもしれない。いずれにせよ若手経営者の意見を吸い上げて、滞在・滞留時間を長くする魅力ある商業施設を作れるような視点が必要があるように思う。

【委員長】

提言書の市民団体との連携について、商工会やJCとし、市内の回遊性についても記載する。

【委員】

高架下の利用も含めて考えるのであれば、創業支援のように小田急にも入っても良かった方が良くも知れない。

【委員長】

J Cや鉄道会社との連携、民間事業者含めて提言書に記載すること。

【委員】

創業支援について、少なくとも市がやったのは良かったと思う。少なくとも形になった。発展形になるかわからないが。しっかりと形にしたのは評価する。

—評価対象Cについて事務局から説明—

【委員】

色々な団体に高齢者が活動してきたが、全体的に高齢化が進み、新しいシニアが増えてきている。しかし既存の組織に入っていないという課題があるように思う。老人クラブが増えているのに老人会に属している人が減少しているため、新規に入りづらい何かがあるのかはわからない。

【委員】

町会にしても、最初のうちは新規メンバーが入ってきていたが、メンバーが固定化してしまった。

【委員】

無理して既存の団体に加入しなくてもよいのではないか。先ほどの話に戻るが、何をしているか分からず、周囲の人とのつながりが無い状況が困るわけで、町会等の団体に属さなくても、何らかの形で市や周囲の人とつながればよいのではないか。

【委員長】

既存コミュニティを復活させるのは無理な話であるため、それに代わるものを考えるということ。

【副委員長】

最後の子どもがのびのび育つ街のところは委員会の意見を反映頂いた内容だと認識しております。

【委員長】

特になければその他をお願い致します。

【事務局】

議題3については、意見等あれば8月26日までに事務局まで提出をお願いします。次回会議については、9月6日（火曜日）の午後7時より開催する。

【配布資料】

資料1 質問票及び施策評価シート（地域で支え合う仕組みづくり）

資料2 質問票及び施策評価シート（SDGs）

資料3 提言書（案）